

# 三徳山三佛寺所蔵江戸時代 青銅鏡の調査

## 1 はじめに

奈良文化財研究所では現在、鳥取県の三徳山三佛寺の歴史資料を主体とした所蔵品調査をおこなっている。その中で、当寺宝物殿に所蔵されている江戸時代青銅鏡の存在について住職よりご教示を得たため、考古学的調査と非破壊分析調査をおこなった。その成果を報告する。

## 2 調査の目的と鏡の概要

三佛寺における本鏡群に関する調査は今回が初めてであるため、本鏡群の特性を様々な角度から把握し、基礎データを収集することを目的とした。

江戸時代の青銅鏡は全部で16点確認した<sup>1)</sup>(表5)。鏡種としては柄鏡が中心で、一部、懐中鏡や懸鏡もある。形態などから製作時期は主に江戸中～後期に位置づけることができるが<sup>2)</sup>、文様をもたない懸鏡については、製作時期が明確でない。柄鏡のうち、鏡台に嵌め込まれたものは、奉納鏡として詠えられ神前に置かれたものだろう。なかには、鏡台に大正や昭和の銘をもつものがあり、江戸期の伝世鏡が後に奉納されたものと考えられる。一方で、鏡箱に納められたものや懐中鏡については、奉納鏡であるのか明確でない。また、懸鏡は、現在三佛寺の神事で用いられる御輿の懸鏡4面(現代のニッケル鏡)と径や砂目地の様子が酷似しており、本鏡と範傷が一致する御輿懸鏡が4面中2面あることから、本鏡も元々は御

輿の懸鏡で、これを型取って現代の懸鏡を製作したとみられる。

鏡に刻まれた銘をみると、大阪の鏡師とされる「藤原光長」がもっとも多く、他にも「天下一松村因幡守」「西村豊後椽政重」など、京都・大阪の鏡師<sup>3)</sup>が目立つ。近世の鏡の流通範囲を示す事例として興味深い<sup>4)</sup>。

(中川あや)

## 3 非破壊調査

三佛寺において非破壊による蛍光X線分析を実施した。鏡面、鏡背面、柄の部分それぞれ測定し、検出された銅の積分強度から各元素の積分強度比を求めた。分析装置は可搬型蛍光X線分析装置NitonXL3t-500(リガク製)を使用し、測定条件は、miningモード、試料間距離は約3mm、管電圧20kV、40kV、50kVで各30秒間測定した。図15に、銅の相対強度を100としたときの各元素の相対強度比から、錫に対する鉛とアンチモン相関を示した。

今回分析した鏡について、その相対強度比から以下のような5群に大別することとした。まず錫の相対強度比が小さい資料1、4、8、13をA群とした。A群は鉛の相対強度比も小さい。次に錫が一定以上含まれている資料群の中でアンチモンの相対強度比が大きい資料3、6、7、12がある。資料3は錫の相対強度比が大きく、ヒ素のそれが小さいなど、他3資料との差異が認められるためD群とし、資料6、7、12をC群、残りの資料をB群とした。またグラフからC群はB群の化学組成にアンチモンを追加したとも考えられる。さらにB群は、鉛

表5 三徳山三佛寺所蔵江戸時代青銅鏡一覧

No.	種類	文様	銘	鏡面径 (長辺長)	柄長 (短片長)	柄幅	割合 (鏡面径/総長)	鏡台○ 鏡箱□	備考	群
1	柄鏡	蓬莱園(洲浜松竹鶴亀図)	藤原光長	14.6	9.1	2.7	61.6	○		A
2	柄鏡	「高砂」文字入松樹図	藤原光永作	20.7	8.8	3.2	70.2	○		B2
3	柄鏡	桐文散横菊図	藤原光長	17.4	9.0	3.0	65.9			D
4	柄鏡	丸に橘紋入椿樹図	藤原光長	15.9	8.8	2.6	64.4	□		A
5	鏡	竹橋樹図	藤原光長	17.5	8.9	3.0	66.3			B2
6	柄鏡	洲浜松竹南天樹図	藤原光永作二上	20.8	10.0	3.9	67.5	□		C
7	柄鏡	木瓜・藤紋入水仙図	藤原光永	12.9	8.7	2.6	59.7	○		C
8	柄鏡	叢地蹴鞠に覗き花菱図	天下一松村因幡守	21.1	10.4	3.4	65.7	○		A
9	柄鏡	蓬莱園(洲浜松竹鶴亀図)	西村豊後椽政重	20.7	9.2	3.5	69.2	○		B2
10	柄鏡	蓬莱園(洲浜松竹鶴亀図)	野田和泉守藤原金益	27.7	10.0	4.9	73.5	○	鏡台に「寄付者大宇阪本/鳥越なか/大正六年十二月十七日」墨書	B1
11	柄鏡	「福寿」文字入宝尺図	植田山城守藤原吉正	24.2	9.5	4.8	71.8	○	鏡台に「奉納昭和三年旧三月一日粟住樋口勝蔵」墨書	B2
12	柄鏡	隅切角に三柏紋入柳樹舟図	藤原義勝	16.9	8.6	2.6	66.3			A
13	柄鏡	丸に三つ目紋入檜垣梅樹図	天下一藤原作	10.5	欠損	2.0				C
14	懐中鏡	薄図	天下一藤井光重	9.1	6.1					B1
15	懐中鏡	梅紋入唐草図	天下一藤原政重	13.3	5.1					B2
16	円鏡(懸鏡)	素文		20.5					御輿用懸鏡か	B1

表6 蛍光X線分析による測定値 (各元素の相対強度比)

No.	As	Pb	Ag	Sn	Sb	面	色	No.	As	Pb	Ag	Sn	Sb	面	色
1	1.09	2.01	0.25	0.08	0.33	鏡背1	赤銅色	10	0.49	2.44	0.23	0.52	0.14	鏡背1	暗褐色
1	1.19	1.97	0.23	0.09	0.30	鏡背2	赤銅色	10	0.52	2.24	0.26	0.51	0.13	鏡背2	暗褐色
1	1.49	1.40	0.36	0.15	0.36	鏡面1	金色	10	0.67	3.55	0.22	0.46	0.12	鏡面1	黄褐色
1	1.48	1.32	0.37	0.17	0.34	鏡面2	金色	10	0.68	3.68	0.22	0.50	0.13	鏡面2	金色光沢
2	0.34	3.00	0.32	1.01	0.09	鏡背1	暗褐色	10	0.70	3.50	0.25	0.58	0.14	鏡面3	銀色
2	0.31	4.33	0.30	1.05	0.10	鏡背2	暗褐色	11	0.58	1.48	0.29	0.84	0.16	鏡背1	暗褐色
2	0.57	1.36	0.26	0.92	0.09	鏡面1	暗褐色	11	0.59	1.41	0.26	0.83	0.16	鏡背2	暗褐色
2	0.61	1.65	0.28	1.00	0.08	鏡面2	暗褐色	11	0.71	1.58	0.31	0.94	0.17	鏡背3	暗褐色
3	0.15	2.62	0.45	1.61	1.97	鏡背1	暗緑色	11	0.84	1.24	0.27	0.84	0.16	鏡面1	金色掛かる
3	0.16	2.64	0.37	1.55	1.97	鏡背2	淡褐色	11	1.01	1.17	0.27	0.89	0.15	鏡面2	金色掛かる
3	0.36	2.26	0.38	1.50	1.74	鏡面1	銀色	12	0.88	5.89	0.38	0.70	0.95	鏡背1	緑色
3	0.20	3.36	0.43	1.85	2.25	鏡面2	暗緑色	12	0.84	6.11	0.35	0.71	0.94	鏡背2	暗緑色
4	0.88	2.35	0.29	1.12	0.35	鏡背1	暗褐色	12	0.88	5.54	0.38	0.65	0.86	鏡背3	暗緑色
4	0.69	1.09	0.27	0.11	0.28	鏡背2	明褐色	12	0.75	5.65	0.32	0.67	0.86	鏡背4	暗緑色
4	0.98	1.54	0.28	0.16	0.29	鏡面1	銀色	12	1.74	8.13	0.44	0.91	1.09	鏡面1	暗緑色
4	0.91	1.56	0.27	0.11	0.35	鏡面2	暗黒褐色	12	1.65	7.68	0.43	0.81	1.09	鏡面2	金色
5	0.94	3.52	0.38	1.12	0.63	鏡背1	暗緑色	12	1.32	7.09	0.42	0.80	0.96	鏡面3	緑色
5	0.89	3.57	0.38	1.12	0.65	鏡背2	暗緑色	12	0.84	5.04	0.39	0.72	0.99	鏡面4	緑色
5	1.35	2.50	0.38	1.17	0.63	鏡面1	銀色	13	1.12	0.47	0.20	0.11	0.10	鏡背1	黒色
5	1.11	2.88	0.36	1.13	0.64	鏡面2	暗褐色	13	1.17	0.56	0.24	0.12	0.11	鏡背2	黒色
6	0.23	8.78	0.51	0.52	2.07	鏡背1	暗褐色	13	1.12	1.11	0.32	0.13	0.08	鏡面1	金色
6	0.28	9.55	0.55	0.56	2.43	鏡背2	暗褐色	13	1.24	1.34	0.34	0.15	0.11	鏡面2	金色・褐色
6	0.31	2.14	0.38	0.38	1.56	鏡面1	暗緑色	14	1.05	0.72	0.23	0.73	0.16	鏡背1	暗緑色
6	0.19	1.75	0.37	0.37	1.48	鏡面2	暗褐色	14	1.03	0.75	0.24	0.73	0.18	鏡背2	暗褐色
7	0.62	3.64	0.54	0.42	2.33	鏡背1	暗緑色	14	1.05	0.67	0.25	0.77	0.19	鏡背3	暗褐色
7	0.44	1.37	0.40	0.31	1.71	鏡背2	暗緑色	14	1.71	1.59	0.32	0.82	0.18	鏡面	金色
7	0.61	1.77	0.38	0.31	1.74	鏡面1	暗緑色	15	0.68	3.23	0.23	0.50	0.11	鏡背	暗灰色
7	0.53	1.86	0.38	0.35	1.74	鏡面2	暗緑色	15	0.84	2.61	0.22	0.52	0.11	鏡面	黄褐色
8	1.50	1.12	0.21	0.13	0.08	鏡背1	暗褐色	16	0.72	6.75	0.40	0.60	0.45	鏡背1	暗緑色
8	1.52	1.37	0.22	0.14	0.08	鏡背2	暗褐色	16	0.77	4.96	0.36	0.59	0.38	鏡背2	暗緑色
8	1.82	1.35	0.35	0.13	0.09	鏡面1	黄褐色	16	0.62	5.83	0.33	0.45	0.27	鏡背3	暗緑色
8	1.83	1.40	0.26	0.18	0.08	鏡面2	金色光沢	16	1.52	6.84	0.37	0.72	0.40	鏡面1	暗褐色
8	2.13	1.07	0.22	0.14	0.10	鏡面3	暗緑色	16	1.39	7.10	5.58	1.46	1.16	鏡面2	暗緑色
9	0.47	5.19	0.27	1.20	0.12	鏡背1	暗緑色								
9	0.43	3.79	0.28	1.18	0.12	鏡背2	暗緑色								
9	0.69	7.50	0.29	1.21	0.12	鏡面1	金色								
9	0.71	7.48	0.28	1.27	0.12	鏡面2	金色								

やヒ素の相対強度比のバラツキから、B 1 群 = 10、15、16、B 2 群 = 2、5、9、11、14と二分することができる。

鏡面・鏡背面で検出元素に違いがあるかに着目すると、鉛に関しては、鏡面と鏡背面とで相対強度に相違がある資料が散見され(資料1、2、6、9、10、13)、これは鑄造時の偏析や腐食の可能性を考慮しておきたい。また、水銀は、資料14を除く15点で鏡面から検出された。これは、鍍錫を反映しているとみられる。(降幡順子)

柄鏡について法量(総長に占める鏡面径の割合)と測定値の相関をみると、一定の資料数が得られたA群とB 2 群について、A群は61.6~66.3、B 2 群は66.3~71.8と差異が明瞭である。柄鏡の総長に占める鏡面径の割合は、時代の変遷に応じて大きくなるのが指摘されており<sup>4)</sup>、これに照らすと、時代が下るにつれ化学組成に占める錫の割合が下がる傾向にあると言える。

江戸時代末期の京都鏡問屋金森恒七の記録によると<sup>5)</sup>、鏡は誂から彦まで7段階の種別分けがなされ、それぞれ錫や鉛、亜鉛の割合や古鏡地金を用いるかどうか細かく異なる。今回の分析結果を照らし合わせると、群に種別を比定することは難しいが、例えばC群はB 1 群にアンチモンを混ぜたものと考えられ、種別差を反映している可能性がある。(降幡・中川)

#### 4 まとめ

今回の調査では、三佛寺所蔵江戸時代青銅鏡の基礎

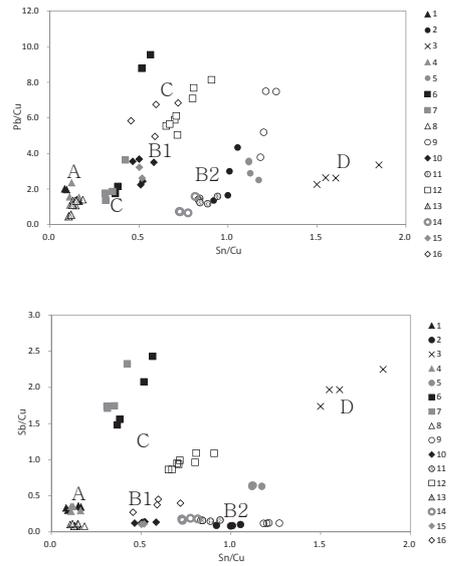


図15 錫・鉛と錫・アンチモンの相関

データを収集することに努めた。非破壊分析では、化学組成によって5群に大別できること、化学組成の違いが製作時期と関連する可能性があること、また、鏡面や鏡背面における元素の相対強度の違いが、鍍錫等の製作技法を反映している可能性があることなどを指摘した。

全国的に見ても、江戸時代青銅鏡の分析調査は古代以前の青銅鏡と比較すると多いとは言えないが、今後、今回得られた分析結果に基づく予察を、他の江戸時代鏡青銅に敷衍して検討し、三佛寺所蔵鏡の特性や、全国の江戸時代鏡の製作に関する具体的な様相を明らかにしていきたいと考えている。(中川)

#### 謝辞

本鏡群の整理過程で、久保智康氏にご意見を頂きました。記して感謝申し上げます。

#### 註

- 1) 宝物殿には、奈良時代の鸚鵡文鏡も1点保管されているが(中川あや・降幡順子「三徳山三佛寺所蔵鸚鵡文銅鏡の調査」『紀要 2015』)、奈良時代よりも新しい時期の鏡は近世に至るまで確認されていない。
- 2) 前田洋子「柄鏡の変遷—古家コレクション及び大阪市立博物館所蔵の資料を中心として—」『大阪市立博物館研究紀要第9冊』大阪市立博物館、1997、内川隆志「柄鏡の変遷」『柄鏡大観』(株)ジャパン通信社、1994にもとづく。
- 3) 廣瀬都巽「第十章 江戸時代の鏡工」『和鏡の研究』角川書店、1974参照。
- 4) 註2 前田論文参照。
- 5) 廣瀬都巽「第九章 柄鏡」『和鏡の研究』角川書店、1974。